

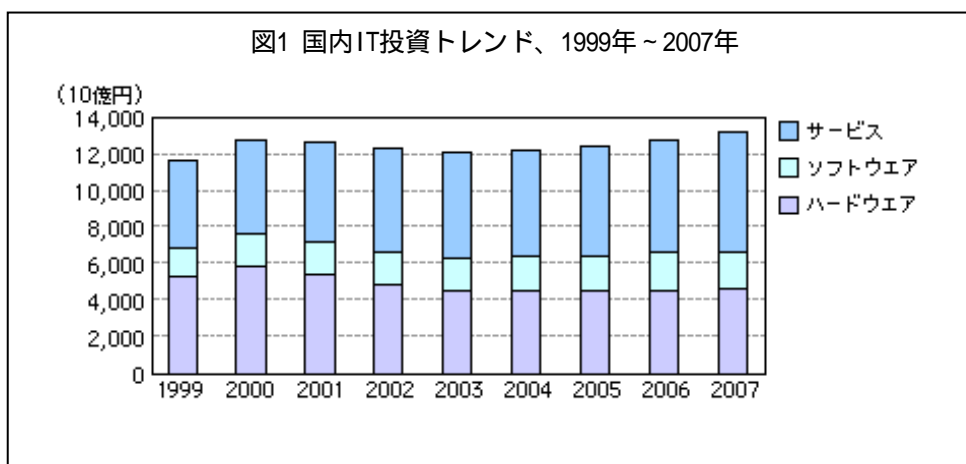
## 日本のIT市場が今後どのように変化するのか：「通信サービス市場」に注目

2004.2.12 IDC JAPANより

### 2004年のIT投資は4年ぶりにプラス成長

2003年のIT投資金額は、前年比マイナス2.4%の11兆9200億円であった。これは、サーバー、ストレージ、などのハードウェアがマイナス成長であったこと、またサービス、ソフトウェアも当初予測していたより低い伸びにとどまったためである。国内IT投資は、2001年はマイナス1.4%、2002年はマイナス2.9%、2003年はマイナス2.4%と、3年連続マイナス成長であった。この背景には、世界の経済環境が大きく変化したことが挙げられる。中国の生産基地としての存在感の拡大など、経済のグローバル化の中で、企業の経営者が「IT投資をどのように行うべきか」を慎重に考え、IT投資を控えめに行った。

しかしながら、2004年のIT投資規模は、2.2%成長の12兆1767億円を見込んでいる。これは、経済環境が回復基調にあることと、2000年問題の後低く抑えられていた投資が買い替えのサイクルに入っていることがプラスの方向に働くと考えられるためである。製品別市場規模は、サーバーなどのマルチクライアントシステム製品が1兆2,167億円、パソコンなどのシングルクライアントシステム製品が2兆6,547億円、データコミュニケーション機器が5,573億円、ソフトウェア1兆9,360億円、ITサービスが5兆8,120億円になるとIDCではみている。1999年から2007年までのIT投資の推移をグラフに示す。(図1)



### 2004年以降、IT投資がプラス成長となる背景

加速する技術革新、市場の変化への対応、さらなるコスト削減の実現など、すべての分野および業種における企業活動にとってITの利用が必須となっていることが挙げられる。産業分野別に例をあげると以下ようになる。

景気回復の原動力となっているデジタル家電を供給する製造業

ブロードバンドの普及でIP通信によるビジネスが拡大する通信サービス業

地上波デジタル放送が開始されたメディア

ICタグの利用によって業務改革を目指す流通・小売・卸売業

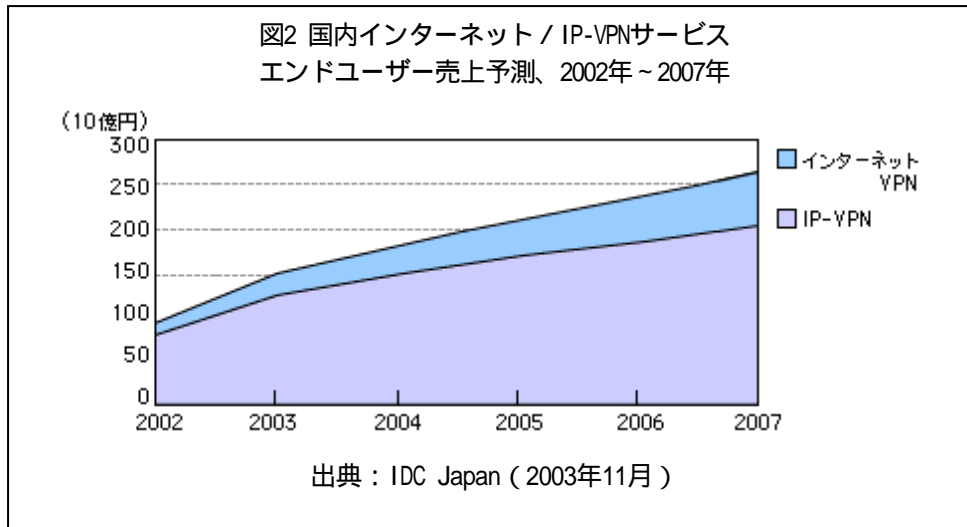
電子マネーへの対応に取り組み始めた金融業

このようにあらゆる分野でIT投資を基本にしたビジネス展開が挙げられる。

2004年の国内IT市場を構成する要素としてIDCが挙げる項目の中で、最も変化が大きく注目されるのが、「通信サービス」の分野である。国内ではIPベースとするWAN構築の動きが本格化している。特に、音声とデータの統合が企業の通信コストを抑える有効な手段として認識され始めたこと、これに対応した通信事業者側のIP-VPNおよびVoIPサービスの充実が背景にある。

## インターネット / IP-VPN サービスの伸びが顕著に

インターネット / IP-VPNサービスのエンドユーザー売上は、2002年の989億円から年平均21.7%で成長し、2007年には2,638億円に達する見込みである。そのうち、インターネットVPNは、年平均成長率33.0%で拡大するとIDCでは見ている。



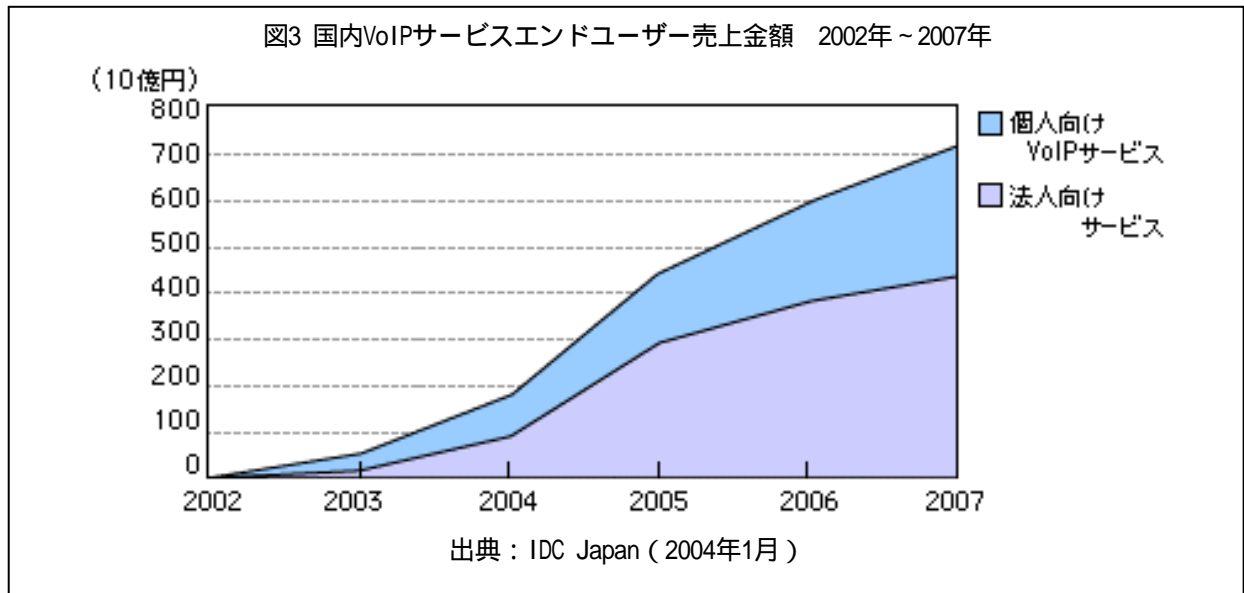
現在成長段階にある国内インターネット / IP-VPN 市場では、成功を収めている大手通信業者と苦戦を強いられる事業者との差が鮮明になっている。第一種通信事業者の中では、従来から市場を牽引してきた NTT コミュニケーションズ、KDDI、日本テレコム の3社に集約されつつあり、これら以外ではNTT-ME および富士通のFENICS などの第二種通信事業者が大きな成功を収めている。

大手通信事業者は、インターネット / IP-VPN への移行が可能な大きな既存顧客ベースと広範囲な営業活動が互いに効を奏し成功を収めている。また、大手通信事業者は大規模な販売力を駆使し、インターネット / IP-VPN サービスの開発への経営資源の投入が可能である。インターネット / IP-VPN サービスが登場した際、これら3社の通信事業者は小規模通信事業者が技術的に優位な立場になることを阻止し、MPLS バックボーンの構築にも積極的に取り組んだ。このような要因により、一部の大手通信事業者が市場の多くを支配する状況が続いている。

## VoIP サービスの成長

国内VoIPサービス市場は、2002年の31億円から2007年には7200億円に達する見込みである。現在VoIPサービスの売上金額は、個人ユーザーが企業ユーザーを上回っているが、2005年からは企業への導入が大半を占めるようになるとIDCでは予測している。

VoIPサービス市場は日本ではまだ立ち上がったばかりだが着実に成長しており、通信分野への新規参入事業者やISPによって、個人および企業ユーザーのVoIPサービスに対する認知度を確立しているといえる。インフラ面では、個人ユーザーのブロードバンド接続および企業ユーザーによるIP-VPN技術の利用が急速に広がっており、従来のPSTNサービスに変わりVoIPの利用が徐々に増えてきている。



Yahoo!Japan が BB フォンサービスで成功を収めたことにより、ISP 各社も収益の見込める VoIP サービスをサービスメニューに追加しつつある。しかし、ビジネス市場においては、付加価値サービスの利用が期待されるため、長期的にはより多くのビジネスチャンスが生まれると IDC ではみている。ブロードバンドサービスプロバイダーや ISP は増収を見込んでサービスを展開しており、VoIPサービスは、ブロードバンドを導入した家庭に急速に浸透しつつある。

IDC Japan では、ブロードバンド接続が標準となり、IP-VPN などの新しい技術の普及に伴い VoIP サービスを利用する企業ユーザーが増えると見ており、国内VoIPサービス市場は今後着実に成長すると予測している。

## 2004 年の国内 IT 市場で注目されるその他の動向

### PC市場はコンシューマー・企業向けとも回復傾向

ハードウェアへの投資比率は、サービス、ソフトウェアに対して低下する傾向にあるものの、その動向は依然として国内 IT 市場に大きな影響を与えている。最も大きな比率を占める PC 市場では、コンシューマー、企業向けとも台数では回復が見込まれる。

### ユーティリティコンピューティングの議論は本格化

サーバープラットフォームのコモディティ化および標準化は世界的に進行している。「ユーティリティコンピューティング」の議論が本格化すると IDC では見ている。

2004 年には、グリッドコンピューティングが実験的に採用され、ユーティリティコンピューティングへの助走が始まるであろう。

### 2004年はインフラ管理ソフトウェア市場が伸びる

ネットワークを中心に IT 投資をデザインする傾向が強まることで、システムの複雑化が増し、ソフトウェアへの需要が高まるであろう。2004 年にはシステム/ネットワーク管理、ストレージ管理、セキュリティ管理など、システムのインフラを管理するソフトウェアの市場が成長する。

### 注目サービスはネットワークインフラとマネージドサービス

サービス分野では、通信と融合した「情報システムとしてのサービス」に対する期待が高まり、通信キャリアの提供するネットワークインフラに関わるサービス、およびデータセンターとして提供するマネージドサービスが注目される。

### 依然として製品価格の下落は続く

製品価格の下落が続き、サーバー、ストレージ、IT サービス/ソフトウェア市場の成長の阻害要因となる。2004 年は価格下落の圧力に対応するため、提供される製品とサービスの組み合わせを見直し、その価値を最大限にする努力が ITベンダーに求められるであろう。

### アウトソーシングへの投資は増加傾向

アウトソーシングへの期待と投資は勢いを増し、IS アウトソーシング、アプリケーションアウトソーシング、ネットワークインフラ管理、データセンター利用の各分野でユーザー企業の投資金額は拡大する。

### 2004年のIT投資はプラスに！中国経済の成長も好影響

2003 年の日本経済が予測以上に高い GDP 成長率を実現する見通しとなり、政府は2004 年の名目GDP においてもプラス成長を目指している。こうした状況はIT投資に対してもプラスの要因として働くと考えられる。

また、中国経済の急速な成長は、日本国内の企業にとって脅威となる面が存在すると同時に、新しいビジネスの機会を創出している。